

日本気象学会

1993年度春季大会

会期：1993年5月17日（月），18日（火），19日（水）
 会場：気象庁（東京都千代田区大手町1-3-4）
 電話（03）3212-8341
 KKR 竹橋（〒100 東京都千代田区大手町1-4-1）
 電話（03）3287-2921

目次

会場案内	221
大会行事予定表	222
総会次第	223
シンポジウム内容	223
研究発表題目	224～234

会場案内



1993年度春季大会行事予定

1. 会場：気象庁（電話 03-3212-8341），KKR竹橋（電話 03-3287-2921）

A会場：気象庁2階 講堂
 B会場：気象庁5階 第1会議室
 C会場：KKR竹橋 孔雀
 D会場：KKR竹橋 丹頂

ポスター会場：気象庁2階 ロビー
 総会・記念講演：気象庁2階 講堂
 シンポジウム：気象庁2階 講堂
 懇親会：第3合同庁舎地下

2. 会期：1993年5月17日（月），18日（火），19日（水）

() は講演数（第1種-第2種と講演番号），- は座長

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月17日 (月)	09:00~ 12:30	メソ気象 I (7-8, A101~A115) -坪木和久- -渡辺 明-	第1日のB会場は 10時30分講演開始 ----- 気象力学 I (3-5, B101~B108) -佐藤正樹-	気候 I (8-7, C101~C115) -三上岳彦- -工藤達也-	海洋・大気相互作用 (5-1, D101~D106) - (未定) - 大気境界層 I (9-3, D107~D118) -菊地時夫-
	13:30~ 16:00	メソ気象 II (11-3, A151~A164) -平 隆介-	気象力学 II (3-7, B151~B160) -三村和男-	気候 II (7-4, C151~C161) -森永由紀- -松野太郎-	大気境界層 II (14-1, D151~D165) -鳥谷 均-
	16:10~ 17:30	ポスター・セッション (A会場で概要紹介後, ロビーで講演)			
5月18日 (火)	09:00~ 12:00	雲物理 (16-1, A201~A217) -遊馬芳雄- -高橋庸哉-	オゾン (3-4, B201~B207) -神沢 博- 大気化学 (7-1, B208~B215) -井上久幸-	大気大循環 (15-3, C201~C218) -田中 博- -木本昌秀-	大気境界層 III (10-5, D201~D215) -清野直子-
	13:00~ 15:15	総会・学会賞・藤原賞授与 学会賞・藤原賞記念講演			
	15:30~ 17:30	シンポジウム メソスケールの気象予測 — 展望と課題 — 座長：永田 雅 話題提供者：瀬上哲秀・吉崎正憲・松野太郎・小倉義光			
	18:00~ 20:00	懇親会			
5月19日 (水)	09:00~ 12:30	雷・シビアストーム (16-2, A301~A318) - (未定) - 放射 I (4-0, A319~A322) -深堀正志-	エアロゾル (13-6, B301~B319) -兼保直樹-	台風 (10-2, C301~C312) -黒岩宏司- 熱帯大気 I (4-2, C313~C318) -楠 昌司-	陸面・大気相互作用 (12-4, D301~D316) -渡辺 カ- -光本茂記-
	13:30~ 17:00	放射 II (16-5, A351~A371) -青木輝夫- -今須良--	重力波・中層大気 (6-7, B351~B363) -黒田友二-	熱帯大気 II (6-1, C351~C357) -沖 大幹- TOGA/COARE (12-1, C358~C370) -牧原康隆-	環境気象・酸性雨・気象教育 (9-5, D351~D364) -佐藤純次-

発表件数 338件（第1種講演226，第2種講演88，ポスター24）

講演者へのお願い 講演・質疑時間は，第1種講演は5分と2分，第2種講演は10分と5分です。

スライドを使う場合は，マウントに番号をつけ，上下をそろえて各会場の係員に提出して下さい。

大会参加費：郵便振替による前納の場合 一般会員 2,000円，学生会員 1,000円，非会員 2,500円；

当日受付の場合は 一般会員・非会員 2,500円，学生会員 1,500円。

なお，郵便振替用紙は「天気」12月号の末尾に挿入されたものをお使い下さい。

総 会

日時 大会第2日(5月18日) 13:00～

会場 A会場(気象庁講堂)

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 1992年度事業経過報告
7. 1992年度会計決算報告
8. 1992年度会計監査報告
9. 1993年度事業計画案・予算案審議
10. その他
11. 閉会の辞

なお、総会に引き続いて学会賞および藤原賞受賞記念講演を行う。

シンポジウム

メソスケールの気象予測 — 展望と課題 —

1. 日時 大会第2日(5月18日) 15:30～17:30

2. 会場 A会場(気象庁講堂)

3. 座長 永田 雅(気研・予報)

4. 講演

瀬上哲秀(気象庁・数値予報):メソスケールの数値予報の現状と将来

吉崎正憲(気研・台風):ドップラーレーダーデータを用いたリトリバル法とメソスケールモデルの初期値への応用

松野太郎(東大・気候システム):メソスケールの力学系へのコメント

小倉義光(気象協会):局地予報の数値モデルと概念モデル

5. 総合討論

研究会のお知らせ

大会に合わせて下記の研究会が行われます(2月24日受付分)。興味のある方はご自由にご参加下さい。

1. 第5回メソ気象研究会

日時:5月20日(木) 09:30～15:00

会場:気象庁5階・第1会議室(B会場)

テーマ:「メソ天気系概念モデルを目指して」

コッピナー:檜尾守昭・中村誠臣(気象庁)

プログラムの詳細については「天気」12月号(768ページ)をごらん下さい。

2. 第3回GAIM(ガイム)研究会

日時:5月20日(木) 10:00～12:00

会場:気象庁8階・東京管区気象台会議室

内容:話題1「森林と地球環境」高橋啓二(千葉大)

話題2「境界層の植生」近藤純正(東北大)

問い合わせ先:及川武久(筑波大・生物科学系)

電話およびFAX:0298-53-6661

秋季大会の予告

1993年度秋季大会は10月26日(火)～28日(木)に宮城県民会館(仙台市)で開催されます。シンポジウム・懇親会等は第1日午後に仙台市民会館で行います。大会告示は「天気」5月号に掲載しますが、講演申込締切は今のところ8月後半になる予定です。

なお講演企画委員会では、秋季大会から口頭発表の方式を一部変更する方向で検討中です。具体的には、第1種・第2種講演の区分の見直し、発表件数制限の強化などを考えています。

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

大会第1日〔5月17日〕 9:00~12:30

(____は第2種講演を, _____は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

A会場

B会場

メソ気象 I

座長:坪木和久(東大・海洋研)

- A101 渡辺 明(福島大・教育):安定成層中での擾乱の生成と構造
- A102 渡辺 明(福島大・教育), 上田 博(北大・理), 山中大
学(京大・超高層), 住 明正(東大・気候システム):梅雨前
線帯のMeso構造IV
- A103 柴垣佳明(大阪電通大), 山中大・橋口浩之・深尾昌一
郎(京大・超高層), 前川泰之(大阪電通大), 佐藤 亨(京
大・工), 津田敏隆(京大・超高層), 上田 博(北大・理),
渡辺 明(福島大・教育), 高藪 出(気研・応用):梅雨
季対流圏のMUレーダー3週間連続観測:対流群および中
間規模低気圧との対応
- A104 永戸久喜・佐藤 薫・廣田 勇(京大・理):対流圏中間
規模東進波の立体構造
- A105 荒生公雄(長崎大・教育), 藤吉康志・武田喬男(名大・水圏
研):雲仙土石流に着目した降雨のRHIレーダー観測
- A106 横田寛伸(気象庁・予報):大阪の淀川チャンネル型大雨に
おけるback building
- A107 藤吉康志・耿 驥・武田喬男(名大・水圏研):二台の
ドップラーレーダーを用いた中層メソ渦の解析(2)

座長:渡辺 明(福島大・教育)

- A108 立花義裕(北大・低温研):海岸地域での「陸風を伴った
降雪」の継続時間に対する河川地形の影響
- A109 勝俣昌巳(北大・環境), 上田 博・菊地勝弘(北大・理),
北大レーダーグループ:NOAA/AVHRRを用いた北海道西岸帯
状雲の雲頂構造の解析
- A110 佐藤晋介(北大・低温研), 藤吉康志(名大・水圏研), 「都
市豪雪」観測グループ(代表者:菊地勝弘):Tモード筋
状雲の力学的構造と形成維持機構の研究
- A111 吉本直弘・藤吉康志(名大・水圏研), 三隅良平(防災科
研), 越田智喜・武田喬男(名大・水圏研), 岩崎博之(気
研・台風), 「都市豪雪」観測グループ(代表者:菊地勝
弘):主風向にはほぼ平行な走向を持つ筋状雲の構造
- A112 上野圭介・上田 博・遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理),
北大レーダーグループ, 佐藤晋介・遠藤辰雄・竹内謙介(北
大・低温研), 藤吉康志・武田喬男(名大・水圏研):石狩
湾周辺における降雪雲の発生・発達機構の観測-その6:
1992年1月24日の小規模渦状擾乱の構造-
- A113 藤吉康志・吉本直弘(名大・水圏研), 三隅良平(防災科
研), 越田智喜・武田喬男(名大・水圏研), 岩崎博之(気
研・台風), 「都市豪雪」観測グループ(代表者:菊地勝
弘):北海道石狩湾上に発生した高気圧回転のメソ渦
- A114 山田芳則・村上正隆・松尾敬世・水野 量・楠原 均(気研),
岩波 越(防災科研・長岡), 中井専人・真木雅之(防災科
研・つくば):暖気移流場に発生したバンド状降雪雲の構造
- A115 松尾敬世・山田芳則・村上正隆(気研・物理):東北地方
日本海上冬季レーダーエコーの特徴

10時30分講演開始

気象力学 I

座長:佐藤正樹(東大・気候システム)

- B101 和方吉信(東海大・海洋):大気海洋結合不安定Basinモー
ドの非線形的振舞について
- B102 加藤輝之(気研・予報), 松田佳久(東大・理):移動する
定常熱源に対する大気線形応答〜直接循環・Gillパケ
ーンから子午面循環への移行〜
- B103 保坂征宏・林 祥介(東大・理):線形赤道 β 面モデルに
おけるwave-CISKモードの振舞い
- B104 中島健介(東大・気候システム):wave-CISKの直接数値実験
- B105 金 海東・木村龍治・中村晃三(東大・海洋研):層雲内
に生じる細胞状湿潤対流(3報)
- B106 佐藤正樹(東大・気候システム):軸対称モデルを用いたハド
レー循環;地表面温度分布に対する応答
- B107 檜尾守昭(気象庁・予報):湿潤過程における物理量変化
の近似式
- B108 楠 昌司(気象庁・数値予報):Lorenzモデルを用いたア
ジョイント法による4次元データ同化実験

大会第1日〔5月17日〕 9:00~12:30

()は第2種講演を, ~は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定

C会場

気候 I

座長:三上岳彦(都立大・地理)

- C101 荒井美紀・竹内謙介(北大・低温研):全球規模の気温変動に於ける非線形性
- C102 安成哲三・朴 惠淑・尾田敏範(筑大・地球科学):地球上気温の季節変化パターンと都市気候成分の解析
- C103 加藤央之(電力中研):多変量解析法を用いたわが国の気温のトレンド解析(2)
- C104 小寺邦彦(気研・気候):火山噴火の冬期対流圏気温に及ぼす影響:成層圏過程を通しての可能性
- C105 花輪公雄・岡崎 誠(東北大・理):北東日本の夏季の気温と大気大循環場
- C106 本田明治・若土正暁(北大・低温研):オホーツク海の海水が冬季北海道の気温変動に及ぼす影響
- C107 中嶋哲二(潮岬測):潮岬における8月の気象と冬の気温
- C108 寺尾 徹・村松久史(京大・防災研):夏季アジア中緯度偏西風帯にみられる顕著な季節内変動について(その2)
- C109 宮崎保彦(気象衛星センター):夏季の熱帯の対流活動と日本付近の大気循環

座長:工藤達也(気象庁・長期予報)

- C110 加藤内蔵進・平沢尚彦(名大・水圏研),松本 淳(東大・地理):秋雨前線帯付近の大規模雲分布と大気場(梅雨最盛期との比較)
- C111 平沢尚彦(名大・水圏研):梅雨期の雲量極大ゾーンの季節変化と年々変化
- C112 三隅良平(防災科研):梅雨降水の数十年スケールの変動
- C113 上野健一(筑大・地球科学):冬期温帯低気圧の経路の年々変動と500hPaの遠隔伝播パターンとの関係
- C114 岩嶋樹也(京大・理),山元龍三郎(気象協会・関西):降水量の長期変動に関する解析
- C115 西森基貴・安成哲三(筑大・地球科学):日本における降水量長期変動の地域性と関連する極東域の地上気圧分布の変動

D会場

海洋・大気相互作用

座長:(未定)

- D101 萩野谷成徳(気研・物理):広域海面熱収支の自動観測(4)
- D102 石井正好・吉川郁夫(気象庁),木本昌秀(気研・気候):全球四次元データ同化システムから得られた海面フラックス
- D103 木本昌秀・長井嗣信・北村佳照・時岡達志・遠藤昌宏(気研):大気海洋結合モデルによるエルニーニョ予報(序)
- D104 長井嗣信・北村佳照・遠藤昌宏・時岡達志(気研):大気-太平洋-インド洋結合モデルによる ENSO
- D105 水野孝則(舞鶴海洋):エルニーニョが変わった?~1970年代後半の気候ジャンプとの関連
- D106 吉岡真由美・木村龍治(東大・海洋研):海洋上を吹く風が固体地球に与えるトルク

大気境界層 I

座長:菊地時夫(高知大・理)

- D107 下田晋也(筑大・環境),甲斐憲次(筑大・地球科学),阿保 真(都立大・工):可搬型ライダーの境界層観測への応用
- D108 大野裕一・増田悦久・中村健治・井原俊夫・岡本謙一(通信総研):環境汚染物質輸送観測用レーダによる初期観測結果
- D109 橋口浩之・深尾昌一郎・D.L.Tobing・山中大学・山本 衛・中村卓司(京大・超高層),佐藤 亨(京大・工),津田敏隆(京大・超高層):境界層レーダーによるプラネタリ-境界層の観測(2)
- D110 山澤弘実・永井晴康(原子力研):下北地区でのソーダ-観測による鉛直風の平均値とスペクトル
- D111 宮田賢二・吉田 幸(広島女大):中国山地の霧の研究(7) — ビデオカメラによる霧の連続観測 — [S]
- D112 原岡秀樹・遠峰菊郎・川端隆志・阿部博文(防大・地球科学):三沢市における海霧観測時の温度場及び風系場の特性
- D113 小林文明・内藤玄一・鳥谷 均・宮本一彦・川端隆志(防大・地球科学),千葉 修(高知大・理):航空機による海風の観測
- D114 内藤玄一(防大・地球科学),千葉 修(高知大・理),小林文明・鳥谷 均・宮本一彦・川端隆志(防大・地球科学):土佐湾で観測された海風に因る波列[SV]
- D115 鳥谷 均・内藤玄一・小林文明・宮本一彦・川端隆志(防大・地球科学),千葉 修(高知大・理):ヘリコプター観測によって得られた気温と湿度の水平分布
- D116 米谷俊彦・柏木良明(岡山大学・資生研):植物群落上の乱流特性について(30)
- D117 薄生 稔(資源環境研):砂漠の混合層(その4)
- D118 越田智喜・加藤内蔵進(名大・水圏研):冬季東シナ海域における混合層のCTEIをみたま成層構造の形成過程

大会第 1 日 [5 月 1 7 日] 13:00 ~ 16:00

(___ は第 2 種講演を, ~~~ は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

A 会場

メソ気象 II

座長: 平 隆介 (気象庁・数値予報)

- A151 瀬古 弘・吉崎正憲 (気研・台風): 数値モデル出力の風データを用いたリトリバル法の開発(3)リトリバル法で求めた熱・水収支について
- A152 吉崎正憲・瀬古 弘 (気研・台風): 数値モデル出力の風データを用いたリトリバル法の開発(4)“冷たい雨”モデルを雲物理過程に入れた場合
- A153 川島正行・坪木和久・浅井富雄 (東大・海洋研): 梅雨前線に伴うレインバンドの維持機構に関する研究—リトリバル法を用いた1988年7月17日九州特別観測の事例解析—
- A154 高野 功 (気研・予報): 関東南岸の不連続線の数値シミュレーション (2報) —雲システムの発生, 発達期について—
- A155 佐々木秀孝・木田秀次・小出 孝・千葉 長 (気研): 局地気候モデルの開発(7)—10km格子JSMの利用—
- A156 清野直子・瀬上哲秀 (気象庁・数値予報): 気象庁JSMによる降雪予想の検討
- A157 瀬上哲秀・中村誠臣・柏木啓一・野村 厚 (気象庁・数値予報): 日本域モデルの解析・予報システムの改良
- A158 松村崇行 (気象庁・数値予報), 高野 功・青梨和正 (気研・予報): レーダ・アメダスを使った日本域モデルの初期値化
- A159 青梨和正 (気研・予報): SSM/I降水強度データとレーダデータとの比較について
- A160 三角幸夫 (気研・予報): 日本付近の降水雲の分類 2 水平スケールと活動度
- A161 加藤美雄 (気象庁・通報): 寒冷前線による北海道の降水量分布について
- A162 金田昌樹 (北大・低温研), 千葉 修 (高知大・理): 北西季節風による高知県の降雪
- A163 二宮洸三 (気象庁): 主低気圧北西象限のシアラインとメソ低気圧ファミリー
- A164 高藪 出 (気研・応用): 関東地方に荒天をもたらした低気圧—1992年12月8日の事例—

B 会場

気象力学 II

座長: 三村和男 (東海大・教養)

- B151 阿部成雄・吉村政人 (防大・地球科学): 一様流中の順圧渦の移動
- B152 金久博忠 (気研・予報): β 平面上での非円形モドンの存在に就いて
- B153 三村和男・和歌山直之・光広道昭 (東海大・教養): 極渦の反転実験 (その2) [V]
- B154 木村龍治・三沢信彦・上野義和 (東大・海洋研): 前線不安定の室内実験 (2報)
- B155 田島俊彦・川平浩二 (富山高専): 固定水面を持つ回転円筒流体の傾圧不安定波 [SV]
- B156 宇加治一雄・玉木克美 (福岡大・理): Amplitude Vacillationの数値シミュレーション
- B157 野沢 徹・余田成男 (京大・理): 回転球面上の強制2次元乱流
- B158 石岡圭一・余田成男 (京大・理): 傾圧不安定による擾乱の飽和過程について
- B159 岩山隆寛・岡本寿夫 (九大・理): 2次元非粘性傾圧流体における渦粘性: 超長波極限
- B160 黒崎 聰・中野哲浩・山中大学・橋口浩之・津田敏隆・深尾昌一郎 (京大・超高層): MUレーダー3週間連続観測に基づく下~中層大気鉛直渦拡散係数の変動度

ポスター・セッションの講演題目はプログラムの末尾にあります

大会第1日〔5月17日〕 13:00～16:00

()は第2種講演を, ~~~~~は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

C会場

D会場

気候II

座長:森永由紀(筑大・地球科学)

- C151 沼田直美(東大・気候システム): GCMで緑のサハラが説明できるか?
- C152 篠田雅人(都立大), 川村隆一(防災科研): 近年のサハルの降水傾向と熱帯の大気循環・海面水温
- C153 谷本陽一(東北大・理), 岩坂直人(東京商船大), 花輪公雄・鳥羽良明(東北大・理): 全球海洋における海面水温の長期変動
- C154 川村隆一・杉 正人(防災科研), 佐藤信夫(気象庁・数値予報): 実際海面水温(1955-88年)を用いた気象庁全球モデルにみられる年々変動
- C155 時岡達志・鬼頭昭雄・中川慎治(気研・気候): 北太平洋における大気・海洋相互作用について

座長:松野太郎(東大・気候システム)

- C156 尾瀬智昭(気研・気候): 月平均地球放射収支(ERBE S-4)の変動の分類
- C157 塚本雅仁・中島映至(東大・気候システム): 大気大循環モデルのための放射フラックスの精密解法
- C158 斎藤正彦(東京電力・技術研), 時岡達志(気研・気候): 二酸化炭素増加に伴う海・陸スケールでの気候変化の特徴(第3報)
- C159 時岡達志・野田 彰・中川慎治・鬼頭昭雄・二階堂義信・本井達夫・行本誠史(気研・気候): 全球大気海洋結合モデルの開発(1)
- C160 田辺清人(三和総研), 松野太郎(東大・気候システム): 海洋の2層湧昇拡散モデルによるCO₂吸収の推定
- C161 山中康裕・田近英一(東大・気候システム): 海洋生物化学大循環モデルによる炭素循環の研究-理想化された海洋におけるパラメタ実験-

大気境界層II

座長:鳥谷 均(防大・地球科学)

- D151 菊地時夫(高知大・理): ナノバーストのシミュレーション
- D152 柳野 健・山城幸浩(気象庁・数値予報): 台風9119号による昇温と数値予報 第2報
- D153 中村 一・藤本英生(気大): 浅水方程式モデルを用いたやませの数値実験
- D154 斉藤和雄(気研・予報): やまじ風の数値的研究(3) — 非静水圧マルチネステッドモデルによるシミュレーション —
- D155 加藤政勝(気研・予報): 山岳後面におけるフロントゲネシスの様相
- D156 加藤輝之・斉藤和雄(気研・予報): 2次元数値モデル内でのCold Air Dammingの維持
- D157 荒川正一・江田佳余子・榎本弘子・加藤牧子・川北晶子・川辺加奈子・後藤禎子・杉本陽子・関口桂子・高橋泰代・服部珠代(東京家政大), 内藤成規(気象衛星センター): 富士山の雲の研究
- D158 吉川友章・里村雄彦・高橋俊二(気研・応用): 離島空港の乱流の現況と防止対策のシミュレーション(ケーススタディ)
- D159 花房龍男・加藤真規子(気研): 飛島における風観測について-風洞実験による観測高度変更の検証-
- D160 大塚裕二・中村泰治・植田洋匡・辰野正和・鳥谷 隆・小園茂平・平田勝哉・石井幸治・深町信尊・渡辺公彦・杉谷賢一郎(九大・応力研): 大気環境研究のための温度成層風洞
- D161 名越利幸・木村龍治・三沢信彦(東大・海洋研), 新野宏(気研・物理): 斜面風の室内実験
- D162 能登美之(気象庁・統計): 風の定点観測に及ぼす地形効果
- D163 鈴木力英(筑大・地球科学): 日本における海陸風と地表地衝風との関係
- D164 森 牧人・小林哲夫(九大・農): 冷気湖が斜面下降風に及ぼす影響について
- D165 吉門 洋(資源環境研): 初冬季に高濃度大気汚染をもたらす関東南部のよどみ域の形成・維持

————— ポスター・セッションの講演題目はプログラムの末尾にあります —————

大会第2日〔5月18日〕 9:00~12:00

()は第2種講演を, ~は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

A会場

雲物理

座長:遊馬芳雄(北大・理)

- A201 斎藤和雄・松尾敬世・村上正隆・水野 量(気研), 猪川元興(故人):対流性降雪雲の地形による変質について(2) - 山の高さの感度実験: warm rainとの比較 -
- A202 加藤祐博・上田 博(北大・理), 吉崎正憲(気研・台風):礼文島において観測された帯状雲の2次元数値実験(その2)
- A203 武田喬男・金田幸恵(名大・水圏研):降水形成の速さの違いが対流雲の構造に及ぼす影響に関する数値モデリング
- A204 高橋 勲(九大・理), 阿波田康裕(京大・防災研), 西山浩司(九大・理):比較的深い対流雲からの降水 - 数値実験[S]
- A205 山田哲二(Yamada Science and Art Corporation):霧の発達, 散逸過程の数値実験
- A206 高谷美正(気象庁・図書資料):Recycling in Cloud Revisited
- A207 松尾敬世・村上正隆・山田芳則(気研・物理):降雪雲へのSEEDING実験(予備実験)
- A208 遠藤辰雄(北大・低温研), 高橋庸哉(北海道教育大), 佐藤晋介・竹内謙介(北大・低温研):石狩平野の降雪雲における雲粒子ゾンの観測
- A209 高橋 勲・織田真之(九大・理), 園井康夫(関西電力):冬期北陸雲の降雪粒子電荷分布 - 九大ビデオゾンデによる観測[S]
- A210 村上正隆・松尾敬世・山田芳則(気研・物理):背の低い雲雲の内部構造
- A211 村上正隆・山田芳則・松尾敬世(気研・物理), J.Marwitz・G.Bordon(ワイオミング大):バンド状雲雲の内部構造

座長:高橋庸哉(北海道教育大)

- A212 和田 誠(極地研), Ben Bernstein・Al Cooper(NCAR):観測データから, 水から氷への相変化を調べる試み
- A213 梶川正弘・武藤哲男(秋田大・教育), 松尾敬世ほか(気研・物理), 中井専人ほか(防災科研), 石坂 隆ほか(名大・水圏研):雪片の構成結晶形からみた対流性降雪雲の諸特性[S]
- A214 沢田敏隆・播磨屋敏生(北大・理), 村本健一郎(金沢大・工):雲粒寄与率の自動測定を試み[S]
- A215 畑中雅彦(室蘭工大), 和田 誠(極地研), 太田貴之・西辻 昭(室蘭工大):VTR画像からの降雪の粒径分布算出法について
- A216 山下 晃・小西啓之(大阪教育大):新型クラウドチェンバーの開発とその応用[V]
- A217 松浦由紀(東芝総研), 榎田武彦(愛知学院大・教養):2光束干渉法による蒸発結晶のその場観察

B会場

オゾン

座長:神沢 博(極地研)

- B201 林 政彦・岩坂泰信(名大・STE研), 岩井邦中(信州大・教育):ピナツポエアロゾル雲によるオゾンホール深化
- B202 川平浩二・長谷川 勉(富山高専), 廣岡俊彦(気大):オゾンホールの最近の水平構造の変化
- B203 神沢 博(極地研), 林 政彦(名大・STE研), 村田 功(東大・理), 山崎孝治(気研・気候):ポローラ・バトロール・バルーンによる1991年のオゾンホール観測実験データ解析
- B204 村山昌平(資源環境研), 山崎孝治(気研・気候), 中澤高清(東北大・理), 青木周司(極地研):昭和基地上空における対流圏オゾン濃度の変動と大気輸送過程の変動
- B205 志鉢 繁(気研・物理):TOMS(Ver.6)から計算された日本付近のオゾンの減少傾向
- B206 林 則雄(高層気象台):117年前の東京のオゾン量
- B207 堤 之智・財前祐二・牧野行雄(気研・物理), 富士山測:富士山頂での対流圏バックグラウンドオゾンの観測[S]

大気化学

座長:井上久幸(気研・地球化学)

- B208 青木周司・和田 誠・渡辺興亜(極地研):北極ニーオルスン基地における大気微量成分観測[S]
- B209 山下栄次(岡山理大・環境), 石田邦光(鳥羽商船), 大滝英治(岡山大・教養):太平洋西部熱帯海域での海水中二酸化炭素の測定
- B210 山本 晋・村山昌平・兼保直樹・石坂丞二(資源環境研), 後藤浩一(関西総合環境センター):中部太平洋における大気及び海洋間のCO₂の交換量について(その2)
- B211 川上修司・近藤 豊・小池 真・H.Zeireis(名大・STE研):西太平洋における対流圏のNO_y, NO_xの垂直分布
- B212 竹内義治・渡辺正明(地球人間環境74-74), 井上 元・泉克幸・内山政弘(国立環境研), 中澤高清(東北大・理), 田野中武志(グリーンブルー):シベリア上空の航空機観測-気象観測及び大気微量成分観測によるシベリアの混合層の特性-
- B213 泉 克幸・内山政弘・井上 元(国立環境研), 菅原 敏・中澤高清(東北大・理), 竹内義治・野尻知子(地球人間環境74-74):シベリア上空での対流圏CO₂の測定
- B214 内山政弘・泉 克幸・井上 元(国立環境研), 菅原 敏・中澤高清(東北大・理), 竹内義治・野尻知子(地球人間環境74-74):航空機によるシベリア上空のメタン濃度の測定
- B215 中澤高清・町田敏暢・田中正之(東北大・理), 成田英器(北大・低温研), 藤井理行・渡辺興亜(極地研):南極南やまとコアより導かれた水期のCO₂, CH₄, N₂O濃度及びδ¹³Cの変動

大会第2日〔5月18日〕 9:00~12:00

(は第2種講演を, は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

C会場

大気大循環

座長: 田中 博 (筑大・地球科学)

- C201 澤田可洋 (札幌管区): 気圧計で検出された1991年ピナトゥボ噴火の気圧波
- C202 石力國男・三島功一 (弘前大・理): 大気潮汐の時空間変動とその解釈
- C203 E.M.P. Ekanayake (九大・理), T. Aso (京大・工), S. Miyahara (九大・理): THE PROPAGATION OF NON-MIGRATING DIURNAL TIDES: A NUMERICAL SIMULATION
- C204 竹内 寛・宮原三郎 (九大・理): 火星大気潮汐の数値実験 (第2報)
- C205 尾崎友亮・隈 健一 (気象庁・数値予報), 内藤勲夫 (国立天文台): 大気角運動量関数に見られる5~10日振動
- C206 丁 亨斌・木村龍治 (東大・海洋研), 田口彰一 (資源環境研): 長周期変動成分の地衡風と総観規模擾乱の移流方向
- C207 三好勉信 (九大・理): 水の物理過程を排除した場合の大気大循環について; その3
- 座長: 木本昌秀 (気研・気候)
- C208 長谷川 聡・田中 博 (筑大), 鬼頭昭雄・時岡達志・二階堂義信・尾瀬智昭 (気研・気候): 気象研究所大気大循環モデルのスペクトルエネルギー解析
- C209 楠 昌司 (気象庁・数値予報): 気象庁全球予報モデルによるモドン型ブロッキング: 事例解析
- C210 佐藤康雄・千葉 長・柴田清孝 (気研・気候): 永続する1月の条件でのAGCM長時間積分に現れるブロッキング現象の解析 (第2報)
- C211 田中 博・木村和央 (筑大・地球科学): 順圧大気モデルに組み込まれた傾圧不安定のパラメタライゼーションについて
- C212 木村和央・田中 博 (筑大・地球科学): 順圧大気モデルによるブロッキング現象の数値実験(1)
- C213 伊藤久徳 (和歌山大・教育), 木本昌秀 (気研・気候): ブロッキングと局所的準定常状態
- C214 露木 義 (気象庁・数値予報): 最適モードを用いた予報精度の予測
- C215 高野清治・前田修平・工藤達也 (気象庁・長期予報), 露木義 (気象庁・数値予報), 山田真吾 (気象庁・予報): 気象庁全球モデルによる1か月予報実験 — 予報精度の予測 —
- C216 前田修平・工藤達也 (気象庁・長期予報), 山田真吾 (気象庁・予報): 気象庁全球モデルによる1か月予報実験 — テレコネクションパターンの予報 —
- C217 諸岡浩子・柏木啓一 (気象庁・数値予報): 高分解能TOVSデータの全球解析-予報サイクルに対するインパクト
- C218 多田英夫 (気象庁・数値予報): 成層圏の4次元データ同化システムの開発

D会場

大気境界層Ⅲ

座長: 清野直子 (気象庁・数値予報)

- D201 武若 聡・池田駿介・平山孝浩・財津知亨 (東工大・土木), 萱場祐一 (土木研): 夏期の河道内の微気象
- D202 藤部文昭 (気研・予報): 首都圏と大阪における気圧日変化の経年変化
- D203 藤野 毅・浅枝 隆 (埼玉大・工), 和氣亜紀夫 (清水建設・技術研): 埼玉県南東部における熱環境の解析と予測
- D204 日置江 桂 (筑大・環境), 甲斐憲次・河村 武 (筑大・地球科学): 環状八号線道路上空に形成される雲 (環八雲) に関する研究
- D205 吉門 洋 (資源環境研): 海風とヒートアイランド循環の相互作用の数値実験
- D206 菊池幸雄 (東大・気候システム): 沿岸域における都市化が都市内外の気候に及ぼす影響
- D207 神田 学・日野幹雄 (東工大・土木): 都市道路網上の熱対流混合層のLarge Eddy Simulation — 大手町・皇居周辺を例に
- D208 水野建樹・近藤裕昭 (資源環境研), 中西幹郎 (気象協会): LESにおける乱流モデルの比較
- D209 半場藤弘 (大成建設): 大気境界層中の化学反応物質の濃度の乱流モデル
- D210 水戸哲司・田中 博 (筑大・地球科学): 風一層モデルによる局地風予測と現地観測との比較研究
- D211 大河内康正 (八代高専): 二次元海風モデルにおける最大上昇流の強さ
- D212 安楽岡 顕 (数理計画), 有沢雄三 (気象協会), 鶴野伊津志 (国立環境研), 尾形和彦 (数理計画), 木村富士男 (東北大・理), 近藤裕昭 (資源環境研), 斎藤朝夫 (数理計画), 鈴木基雄 (気象協会), 高橋俊二 (気研・応用), 中西幹郎 (気象協会), 中笠幸宏 (数理計画), 水野建樹・吉門 洋 (資源環境研), 劉 発華 (CRC総研), 若松伸司 (国立環境研): 局地循環モデルの相互比較
- D213 山田哲二 (Yamada Science and Art Corporation), 辺見植司 (US Army Res. Lab.): 4次元同化法による大規模環境のメソスケールモデルへの導入
- D214 中西幹郎 (気象協会): 晴天時に発生する雲の再現[V]
- D215 水間満郎 (京大・原子炉): 大阪湾・紀伊水道沿岸の海陸風現象の数値実験による検討

A会場

B会場

雷・シビアストーム

座長：(未定)

- A301 河崎善一郎・王 道洪・松浦慶士・井沢清和(大阪大・工), 内田成明・島田義則・藤原関夫・山中千代衛(レーザ総研), 永井敏雄・園井康夫・下倉尚義(関西電力): レーザによる雷の誘導
- A302 深渡瀬角太郎・遠峰菊郎・道本光一郎(防大・地球科学), 長田正嗣(日本無線㈱): 冬季北陸における地上電界値からみた航空機被雷の研究
- A303 小林文明・内藤玄一・深渡瀬角太郎・遠峰菊郎(防大・地球科学), 若井武夫・酒井 勉(北陸電力㈱技研): 海岸域における大気下層の変化と冬季雷雲の発達
- A304 松岡正憲・藤岡博文・白石康寛(東光電気), 吹山直樹・澤田 純・財満英一(東京電力): 夏季雷における地上電界分布とLPATSおよびレーダデータの照合
- A305 前川泰之(大阪電通大), 深尾昌一郎(京大・超高層), 園井康夫(関西電力), 益倉克成(土木研): 二重偏波レーダによる冬季雷雲降水粒子の高度分布の観測
- A306 花土 弘・中村健治・大崎祐次・堀江宏昭・佐竹 誠(通信総研): 同時受信偏波降雨レーダ実験-初期観測結果-
- A307 島津好男・森 一正・岡村博文・田畑 明・岩崎博之・神原 均・山田芳則(気研), 中井専人・真木雅之(防災科研): 竜巻に関連するメソサイクロンのデュアルドップラーレーダー観測速報
- A308 新野 宏・藤谷徳之助・鈴木 修・楠 研一・高藪 出・木下宣幸・大野久雄(気研): 1992年12月8日のスコールラインと茨城県千代田村で発生した竜巻について
- A309 P. Richard (DIMENSIONS), 河崎善一郎・松浦慶士(大阪大・工): 雷放電によるVHF放射と竜巻の移動
- A310 黒良龍太(気象庁・予報): 1992年7月15日に関東南部で発生した雷雲の事例解析
- A311 林 泰一(京大・防災研): 1992年5月24日, 和歌山県すさみ町で発生したダウンバーストについて
- A312 楠 研一・大野久雄・鈴木 修(気研・衛星): 水戸ダウンバースト 1992年9月4日 I — 現地調査と水戸の日記録 —
- A313 大野久雄・鈴木 修・楠 研一(気研・衛星), 小倉義光(東大・海洋研): 水戸ダウンバースト 1992年9月4日 II — 大気の成層状態とドップラーレーダー観測結果 —
- A314 岩下晴彦(日本航空): 孤立ダウンバーストの風日記録上の特徴・他
- A315 石原正仁(気象庁・測器), 田畑 明(気研・台風): マイクロバーストをもたらすエコーコアの降下の検出手法について
- A316 真木雅之・大倉 博(防災科研), 宮地英生(㈱クボタ): ドップラーレーダデータの3次元表示[V]
- A317 鈴木 修・大野久雄・楠 研一(気研・衛星): ドップラーレーダーデータ画像処理システムの開発 — メソ擾乱の解析・自動検出・表示 —
- A318 堀端康善(㈱東芝システム・ソフトウェア生産技術研), 及川博史(㈱東芝・小向工場): ダウンバーストから成長したガストフロントの数値シミュレーション

放射 I

座長: 深瀬正志(気研・物理)

- A319 長澤親生・阿保 真・君山健二(都立大・工), 内野 修(気研・衛星): 対流圏水蒸気測定用差分吸収ライダーの開発

エアロゾル

座長: 兼保直樹(資源環境研)

- B301 日暮明子(東北大・理), 中島映至(東大・気候システム), 坂忠裕(東北大・理): 湾岸域における大気エアロゾルの光学的特性
- B302 永井智広・内野 修・藤本敏文(気研・衛星), 板部敏和(通信総研), 柴田 隆(名大・STE研), D. Wardle (AES), A. Cawsell (ヨーク大): 北極圏におけるPSC及び成層圏エーロゾルの観測
- B303 岩坂泰信(名大・STE研), 藤原玄夫(福岡大・理), 松永捷司(名大・STE研), 秋吉英治(福岡大・理), 長谷正博・中田 滉・柴田 隆・林 政彦(名大・STE研), 安松諭史(福岡大・理), 森 育子・村井康浩・小塩哲朗(名大・STE研), 近藤幸治(高層気象台), 中根英昭(国立環境研): アラスカでのピナツポ火山影響をうけた成層圏エアロゾルの観測
- B304 阿保 真・長澤親生(都立大・工): ライダーによるピナツポエアロゾル層の観測
- B305 内野 修・永井智広・藤本敏文(気研・衛星): ライダーによるピナツポ火山起源成層圏エーロゾルの観測 — つくば(その2) —
- B306 内野 修(気研・衛星), 神山武久・甲斐憲次(筑大・環境), 永井智広・藤本敏文(気研・衛星): ピナツポ火山起源エーロゾルのトラジェクトリー解析とライダー観測の比較
- B307 林 政彦・柴田 隆・岩坂泰信・小塩哲朗・松永捷司・森 育子・村井康浩(名大・STE研): ラマンライダーによる冬季黄砂と水蒸気の同時観測
- B308 森 育子・岩坂泰信・松永捷司・林 政彦・村井康浩・長谷正博・中田 滉(名大・STE研), 大和政彦(群馬大・教養): 自由大気中の黄砂を含むエアロゾルの変質
- B309 伍 培明(中山大), 岡田菊夫(気研・応用): 硝酸イオンを含む黄砂粒子について[S]
- B310 岡田菊夫(気研・応用), 神田道夫(埼玉県川島町役場): 熱気球を用いて採集された東シナ海上の対流圏中部エアロゾル粒子
- B311 新村典子(筑大), 岡田菊夫(気研), 樊 小標(中国大気物理研), 甲斐憲次(筑大), 荒生公雄(長崎大), 岩坂泰信(名大・STE研), 高橋俊二・池上三和子(気研), 石 廣玉(中国大気物理研), 光田 寧(京大・防災研): 長距離輸送中における黄砂粒子の変質—海塩粒子と混合した黄砂粒子に注目して—
- B312 大和政彦(群馬大・教養), 田中 浩・大田啓一・松本 潔(名大・水圏研): 太平洋上の対流圏エアロゾルの航空機観測—1992年8月10日 名古屋~八丈島—[S]
- B313 財前祐二・池上三和子・堤 之智・牧野行雄・岡田菊夫(気研): 日本からフィリピン南方上空におけるCNCを用いたサブミクロンエアロゾルの測定
- B314 三浦和彦・橋詰幸郎・三瓶達生・中江 茂・関川俊男(東京理大・理), 熊倉俊郎(東大・気候システム): 地球規模でのバックグラウンドエアロゾルの水平分布と大陸性エアロゾルの影響(その6)エイトケン粒子濃度の変動幅と経年変化について
- B315 松岡静樹(北大・環境), 菊地勝弘・上田 博・遊馬芳雄(北大・理), 泉 裕明(北大・環境): 冬冬季節風時の帯状雲通過時に於ける大粒子の粒径分布
- B316 兼保直樹・今須良一・村山昌平・山本 晋(資源環境研): 大気エアロゾル-雲の相互作用の観測

大会第3日〔5月19日〕 9:00~12:30

C会場

D会場

台風

座長: 黒岩宏司(気象庁・予報)

- C301 島津好男(気研・台風): 台風8913号の降雨帯の解析 その1
 C302 岡村博文・森 一正・島津好男(気研・台風): 亜熱帯洋上で衰弱期にある台風の周辺構造
 C303 竹内延夫(千葉大・映像隔測センサ): TOMS画像上で台風に伴って現れるC D型特徴の平均的な性質
 C304 石島 英(琉大・短), 朴 倫錫(琉大・理): '台風' 発生・襲来の季節分布について
 C305 藤井 健(京都産業大・教養), 光田 寧(京大・防災研): 北西熱帯太平洋における海面水温の経年変化と台風の発達について
 C306 杉 正人(防災科研), 佐藤信夫(気象庁・数値予報): 気象庁全球モデルを高分解能大気循環モデルとして用いてシミュレートされた台風
 C307 室井あし(気象庁・数値予報): 全球モデルによる台風進路予報検証 — 西太平洋台風とベンガル湾サイクロンについて —
 C308 大野木和敏・上野 充(気象庁・数値予報): 台風ボーガスデータの改良
 C309 上野 充(気象庁・数値予報): 台風ボーガスに非対称成分を付加した場合の台風進路予報へのインパクト
 C310 隈 健一(気象庁・数値予報): 全球モデルによる台風予報の改良—簡略版荒川シューベルトスキームのインパクト—
 C311 栗原和夫(気象庁・数値予報): AMEX期間中の熱帯低気圧Connieのシミュレーション
 C312 釜堀弘隆(気研・台風): 台風の移動に対する海面との相互作用の影響について

熱帯大気 I

座長: 楠 昌司(気象庁・数値予報)

- C313 橋口浩之・深尾昌一郎・津田敏隆・山中大学・山本 衛・中村卓司・足立樹泰・D.L.Tobing(京大・超高層), 佐藤 亨(京大・理), 加藤 進(JIF), S.W.B.Harijono(インドネシア科学技術応用評価局), H.Wiryosumarto(インドネシア航空宇宙局): インドネシア赤道域における境界層レーダー観測
 C314 足立樹泰・津田敏隆・深尾昌一郎・橋口浩之・山中大学・山本 衛・中村卓司(京大・超高層), S.W.B.Harijono(インドネシア科学技術応用評価局), H.Wiryosumarto(インドネシア航空宇宙局): 境界層レーダーを用いたRASS観測
 C315 長谷川史裕・佐藤 薫・廣田 勇(京大・理): ラジオゾンデ観測データを用いた赤道域小規模擾乱の解析
 C316 丸山健人・小寺邦彦(気研): ピナツボ火山噴火に伴う赤道成層圏昇温の評価について
 C317 高橋正明(東大・気候システム): 2次元のGCMを用いたQBOの再現実験
 C318 D.Zhang・H.Tanaka(名大・水圏研): BOUNDARY HEATING AS THE FORCING OF GRAVITY WAVES IN QBO

- A320 北見 淳・松本洋典・竹内延夫(千葉大・映像隔測センサ): 太陽追尾赤外CCD分光法による水蒸気量の観測
 A321 高村民雄・横山徳隆(防大・地球科学), 風間茂徳(総合電子研): 周波数可変型マイクロ波放射計の試作
 A322 今須良一(資源環境研), 小川利紘(東大・理), 小林博和(電力中研), 下田陽久(東海大): IMG/ADEOSによる大気微量成分の測定 — BBMによる下向き大気放射の地上観測 —

陸面・大気相互作用

座長: 光本茂記(国立環境研)

- D301 岩崎博之(気研・台風), 石川浩治(東大・海洋研), 箕輪陽一・高木幹雄(東大・生産研): 気象衛星NOAAの赤外2波長データを用いた陸域の可降水量の見積り
 D302 岩崎博之(気研・台風), 箕輪陽一・高木幹雄(東大・生産研): 気象衛星NOAAの赤外2波長データを用いた陸域の可降水量分布の事例解析
 D303 中川清隆・下通浩子(上越教育大・自然): NOAA/AVHRRによる東南極リュット・ホルム湾沿岸地域の大陸氷床表面温度分布の解析 — 斜面温暖帯と接地逆転層の関係 — [S]
 D304 小林哲夫(九大・農): 冷気流・冷気湖・斜面温暖帯の相互関係について
 D305 小林哲夫・竹下和宏・森 牧人・脇水健次(九大・農): 斜面温暖帯の形成機構に関する研究
 D306 渡辺 力(東北大・理): 植生が斜面下降風に及ぼす影響について

座長: 渡辺 力(東北大・理)

- D307 真木太一(熱帯農研), 潘 伯榮(中国科学院・新疆生物土壤沙漠研): 中国の乾燥地トルファンにおける2列のタマリスク防風林による気象緩和[S]
 D308 三上正男・藤谷徳之助(気研・応用): キャンビー面湿度を用いたバルク法による森林蒸発散量の評価
 D309 甲斐憲次(筑大・地球科学), 松田まゆみ(筑大・自然): 中国河西回廊のオアシスにおける熱収支特性
 D310 三上正男・藤谷徳之助(気研・応用), 張 希明・朱 衛東(中国科学院・新疆生物土壤沙漠研): タクラマカン砂漠における大気・地表面相互作用の観測
 D311 佐橋 謙(岡山大・教育): 砂漠の地中の比湿勾配と接地気層中の比湿勾配の比較
 D312 江守正多(東大・教養), 光本茂記(国立環境研): 地中を多層化した陸地表面モデル(第2報) 地中の物理パラメータに対する大気-陸面相互作用の応答特性
 D313 近藤純正・三枝信子(東北大・理): 土壌空隙中の水の気化を取り入れた土壌モデル
 D314 玉川一郎・光田 寧(京大・防災研): 水蒸気輸送を考慮した土壌モデル(1)
 D315 近藤純正(東北大・理): 砂漠における熱収支 — その意外な姿
 D316 高田久美子(東京電力・技術研), 時岡達志(気研・気候): 『1.5次元モデル』による永久凍土の気候感度実験
- B317 赤川宏幸(筑大・環境), 岡田菊夫(気研・応用): 大気中の煤粒子の元素組成と雲核能力について
 B318 杉田考史・近藤 豊・小池 真・岩坂泰信(名大・STE研), P.Aimedieu(CNRS), C.Schiller(KFA): 中緯度においてエアロゾルが与える成層圏化学への影響
 B319 岡田菊夫・青木輝夫(気研): 冬の南極大気中で採集された硫酸粒子

A会場

B会場

放射Ⅱ

座長：青木輝夫（気研・物理）

- A351 山内豊太郎（気象庁・統計）：火山噴火に伴う大気混濁度の増加
- A352 羽角博康・仙波秀志・中島映至（東大・気候システム）、佐々木秀行（気象衛星センター）：ピナツポ火山噴火に伴う成層圏汚染Ⅱ：GMS/VISSRによるリモートセンシングおよび光学的厚さの推定
- A353 浅野正二（気研・気候）：火山性エアロゾルの放射収支効果について
- A354 塩原匠貴（気研・気候）：サンフォトメータ観測に含まれる散乱光の影響評価
- A355 落合 治・菅野正人（北大・環境）、菊地勝弘・遊馬芳雄（北大・理）、田中正之・早坂忠裕（東北大・理）、武田喬男・藤吉康志（名大・水圏研）：層積雲の雲頂構造とその放射特性
- A356 真野裕三（気研・気候）：小規模積雲群の形態と短波放射特性について
- A357 今須良一（資源環境研）、岩坂泰信（名大・STE研）：レーザ・レーダによるCirrusの観測：Ⅲ — これまでの研究の中間的なまとめ —
- A358 内山明博・浅野正二・塩原匠貴・深堀正志（気研）：巻層雲の放射特性の地上観測（赤外 $10.5\mu\text{m}$ ）と可視 $(0.5\mu\text{m})$ の光学的厚さの比較
- A359 山内 恭（極地研）、T. P. Charlock (NASA)：ERBEデータからみた南極域における雲・海水の放射効果

座長：今須良一（資源環境研）

- A360 早坂忠裕・菊地信行・田中正之（東北大・理）：冬季南西諸島海域で観測された層積雲の放射特性と微物理特性(1)「航空機放射観測とモンテカルロシミュレーション」
- A361 久慈 誠・早坂忠裕・田中正之（東北大・理）、中島映至（東大・気候システム）：冬季南西諸島海域で観測された層積雲の放射特性と微物理特性(2)「NOAA/AVHRRデータによる雲水量と雲粒有効半径の推定」
- A362 早坂忠裕・田中正之（東北大・理）、石坂 隆・藤吉康志・武田喬男（名大・水圏研）：冬季南西諸島海域で観測された層積雲の放射特性と微物理特性(3)「放射特性と微物理特性の整合性について」
- A363 小林隆久（気研・応用）、高村民雄（防衛大）：非黒体都市Canopyの長波長放射パラメタリゼーション
- A364 小林隆久・高橋俊二（気研・応用）：鉛直差分を用いた3次元放射伝達方程式のDOM解
- A365 柴田清孝・内山明博（気研・気候）：Discrete Ordinate Methodで2グリッドノイズを消去するスキームについて
- A366 Zhao, F.・T. Nakajima（東大・気候システム）：An Algorithm for Retrieval of the Aerosols and Clouds from AVHRR Image
- A367 青木輝夫・青木忠生・深堀正志（気研・物理）：多重散乱モデルから見た積雪構造とアルベドの関係
- A368 古澤 明・野口 敬・菊地 昭（NASDA）、青木忠生（気研・物理）：サングリッタの反射率の数値実験
- A369 廣野幹彦（新潟大・工）：Line mixing効果を考慮したバンド・モデル
- A370 青木忠生・深堀正志・青木輝夫（気研・物理）： $1.5\mu\text{m}$ 大気窓領域の H_2O 線強度測定
- A371 深堀正志・青木忠生・青木輝夫（気研・物理）：フロン11、12の吸収帯強度の測定

重力波・中層大気

座長：黒田友二（気研・気候）

- B351 山中大学・下舞豊志（京大・超高層）：局在する慣性内部重力波について
- B352 山中大学（京大・超高層）：準単色重力波・惑星波をパラメタライズした成層圏準一次元大循環モデル
- B353 足立樹泰・津田敏隆・木崎正士（京大・超高層）、増田悦久（通信総研）、深尾昌一郎（京大・超高層）：MUレーダー/RASS観測による大気重力波の励起源の考察
- B354 荻野慎也（神戸大・理）、山中大学（京大・超高層）、柴垣佳明（大阪電通大）、下舞豊志（京大・超高層）、渡辺 明（福島大・教育）、高藪 出（気研・応用）、深尾昌一郎（京大・超高層）：梅雨前線帯における多重圏界面と慣性内部重力波
- B355 津田敏隆・中村卓司・藤岡直人・堤 雅基・山本 衛・足立樹泰・村山泰啓・山中大学・橋口浩之・深尾昌一郎（京大・超高層）、加藤 進（JIF）、H. Wiryosumarto（インドネシア航空宇宙局）、S. W. B. Harijono（インドネシア科学技術応用評価庁）：インドネシア赤道域における中間圏・下部熱圏の流星レーダー観測[S]
- B356 堤 雅基・中村卓司・津田敏隆・深尾昌一郎（京大・超高層）：流星エコーを用いたMUレーダー観測による中間圏界面領域での重力波伝搬特性解析
- B357 中村卓司・津田敏隆・深尾昌一郎（京大・超高層）、R. A. Vincent（アデレード大）、A. H. Manson・C. E. Meek（オーストラリア大）：MUレーダー/MFレーダー観測による中間圏重力波活動のClimatology
- B358 下舞豊志・山中大学・深尾昌一郎・津田敏隆（京大・超高層）：MUレーダー3週間連続観測結果の鉛直ウェーブレット解析(2)
- B359 長澤親生・阿保 真（都立大・工）：中間圏ナトリウム層の夜間変化と季節変化
- B360 池田親信・塩谷雅人・廣田 勇（京大・理）：“Ozone Waves”の統計的研究
- B361 徳廣貴之・廣岡俊彦（気大）、川平浩二（富山高専）：1980年代中層大気の波動と大気大循環の年々変動
- B362 生丸真司（沼津高専）、田中 浩（名大・水圏研）：南半球成層圏の残差下降流の中緯度への集中ロスビー波の非線形相互作用の役割—
- B363 黒田友二・山崎孝治・千葉 長・柴田清孝（気研・気候）：夏期成層圏のEPフラックスについて

大会第3日〔5月19日〕 13:30~17:00

C会場

熱帯大気II

座長: 沖 大幹 (東大・生産研)

- C351 西 憲敬 (京大・防災研): 約30年の高層観測点データを用いた熱帯の季節内変動の解析
- C352 井上豊志郎 (気研・台風): Split Windowデータで観測された対流活動, 海面温度および水蒸気量の季節内変動について
- C353 鬼頭昭雄 (気研・気候): GCM中の熱帯降水量の日変化について
- C354 沼口 敦 (国立環境研): 熱帯月平均降水量分布と海面水温分布の関係について
- C355 佐藤信夫 (気象庁・数値予報): 4次元データ同化により得られた熱帯海上の降水量 — GPIとの比較 —
- C356 新田 勲・関根創太 (東大・気候システム): 熱帯西部太平洋における対流活動の日変化の解析
- C357 沖 理子・住 明正 (東大・気候システム), 沖 大幹 (東大・生産研): 走査幅と平均面積がTRMMサンプリングエラーに及ぼす影響

TOGA/COARE

座長: 牧原康隆 (気研・予報)

- C358 鈴木賢士・遠藤誠美・織田真之・高橋 勲 (九大・理): 赤道, マヌス島 (2°S, 147°E)でのクラウドクラスターの降水機構 — 九大ビデオゾンデによる観測 — [S]
- C359 上田 博 (北大・理), 住 明正 (東大・気候システム), 藤吉康志 (名大・水圏研), 竹内謙介 (北大・低温研), J-COARE観測グループ: TOGA-COARE, マヌス島レーダー観測 (I) — 観測の概要 —
- C360 高橋暢宏・上田 博 (北大・理), J-COARE観測グループ: TOGA-COARE, マヌス島レーダー観測 (II) — 孤立したエコーのライフサイクルについて —
- C361 高橋暢宏・上田 博 (北大・理), J-COARE観測グループ: TOGA-COARE, マヌス島レーダー観測 (III) — ガストを伴うライン状エコーの解析 —
- C362 木下 温・上田 博 (北大・理), J-COARE観測グループ: TOGA-COARE マヌス島レーダー観測 (IV) — 積乱雲群の発達機構 —
- C363 菊地 理・上田 博 (北大・理), J-COARE観測グループ: TOGA-COARE マヌス島レーダー観測 (V) — GMSとレーダーとの比較 —
- C364 佐藤晋介・牛山朋来・遠藤辰雄・竹内謙介 (北大・低温研), J-COARE観測グループ: 熱帯西部太平洋における積雲対流系のメソスケール構造 (I)
- C365 牛山朋来・佐藤晋介・遠藤辰雄 (北大・低温研), J-COARE観測グループ: 西太平洋赤道上の4本のライン状エコー
- C366 城岡章一 (北海道農試), J-COARE観測グループ: TOGA-COARE マヌス島モモテ空港での乱流フラックス観測 [S]
- C367 塚本 修 (岡山大・教養), 石田廣史・林 美鶴 (神戸商船大), 板野稔久・光田 寧 (京大・防災研): 西太平洋赤道域での乱流フラックスの直接測定 (1) (TOGA-COARE速報)
- C368 森 一正 (気研・台風), 飛田 良・上橋 宏・北畠尚子 (気象庁・海上気象): 啓風丸TOGA-COARE観測速報
- C369 中澤哲夫 (気研・台風): TOGA-COARE期間中のスーパークラスター [V]
- C370 山崎信雄・村上勝人 (気研・台風): スーパークラスタースケールでのエネルギーの非線形相互作用 — 有効位置エネルギーの場合について —

D会場

環境気象・酸性雨・気象教育

座長: 佐藤純次 (気研・応用)

- D351 高橋庸哉 (北海道教育大): 理科新教科書での気象関連記述内容とその問題点
- D352 高橋庸哉 (北海道教育大), 遠藤辰雄 (北大・低温研), 村本健一郎 (金沢大・工), 中川千枝 (金沢大・環境): 降雪粒子の酸性化機構
- D353 泉 裕明 (北大・環境), 菊地勝弘・上田 博・遊馬芳雄 (北大・理): 降雪機構からみた降雪粒子の化学成分濃度の特徴
- D354 箕浦宏明・小木曾 毅 (豊田中央研): 酸性雨観測とNO₃⁻沈着過程の考察
- D355 片谷教孝・吉川雅修・風間由香 (山梨大・工), 吉川友章 (気研・応用), 小林恵三 (産業公害防止協会): 関東地方の酸性降下物の発生源 — 流跡線分布に基づく発生源の推定 —
- D356 江口 卓・鶴田治雄・袴田共之 (農環技研): 冬季の日本海側における硫酸イオン降下量の変動と降水原因・流跡線との関係
- D357 堺 松成・黒田 昇・萩須和男 (中部電力), 新谷光三・筑紫文夫・山田忠男 (気象協会): 東海地方における酸性雨と流跡線解析
- D358 直江寛明 (鹿児島地台), 木下紀正 (鹿児島大・教育), 池辺伸一郎 (阿蘇火山博物館): 火山ガス長距離輸送の流跡線解析
- D359 佐藤純次・里村雄彦・佐々木秀孝 (気研・応用), 村治能孝 (国際気象海洋): 東アジア地域における大気汚染質の長距離輸送シミュレーション
- D360 山形斉子 (筑大・人類), 田中 博 (筑大・地球科学): 火山灰追跡モデルの開発と運航業務への応用
- D361 前田 泉・野村 茂・市川省吾・森 忠繁 (岡山県環境保健センター): 瀬戸内地域における紫外線量と大気汚染質の関連
- D362 小柴 厚 (気象庁・産業気象): 温度資源量と年平均気温
- D363 河村 武・朴 惠淑・中山紀子 (筑大・地球科学): ソメイヨシノの開花日と気温との関係
- D364 岡本和人・谷本 信 (東洋学園大): 温室効果とオゾン破壊の相乗作用とその環境および人体への影響

大会第1日〔5月17日〕ポスター・セッション

概要紹介 16:10～16:40; 講演 16:40～17:30

(〰は講演者)

座長: 深堀正志 (気研・物理)

- P101 近藤裕昭・水野建樹・山本 晋・北林興二 (資源環境研) : 風向風速計IRDMAMの風速出力について
- P102 宮下 敦 (成蹊高), 湯本晋一 (東京理大): 成蹊気象観測所における視程観測について
- P103 高橋俊二・花房龍男 (気研・応用): 風観測と小地形-数値モデルによるアセスメント
- P104 青木輝夫・青木忠生・深堀正志 (気研・物理), 朱 衛東 (中国科学院・新疆生物土壤沙漠研): タクラマカン砂漠における水蒸気遠隔測定
- P105 佐藤 薫 (京大・理), 橋口浩之・深尾昌一郎 (京大・超高層): 夏の積雲対流の境界層レーダー・MUレーダー観測
- P106 田畑 明・榊原 均・岡村博文・森 一正・赤枝健治 (気研・台風): 台風9119号のドップラーレーダー観測
- P107 楠 研一・高藪 出・新野 宏・木下宣幸 (気研), 吉野勝美 (全日空): シアライン上に発生した Kelvin-Helmholtz 不安定波
- P108 木下 仁 (気象庁・通報): 波状巻層雲の雲底に見られたスケールの異なる波動-1988年12月20日の事例解析-
- P109 牛山素行 (信州大・農): 雨水発生時にみられる気温鉛直分布の特徴-雨水現象による森林災害の研究 第5報-
- P110 高橋忠司・森 優 (埼玉大・教育): 凍結微水滴から雪結晶への成長について
- P111 内野 修・永井智広・藤本敏文 (気研・衛星), A. Matthews・J. Orange (NIWAR): ニューゼalandにおける成層圏エーロゾルの観測
- P112 鯉谷 憲・内田洋平・文字信貴 (大阪府大・農): 大気中の微量気体の輸送量測定のためのコンディショナルサンプリング装置の開発
- P113 時岡達志 (気研・気候): 「白い地球」の数値シミュレーション
- P114 竹内 寛 (九大・理): 木星型惑星へのHideの定理の応用
- P115 伊藤孝士・濱野洋三・松井孝典 (東大・理), 増田耕一 (都立大・地理), 熊澤峰夫 (名大・理): ミランコビッチサイクルの長期変動と進化
- P116 斎藤正彦 (東京電力・技術研), 時岡達志 (気研・気候): 温暖化時の雪氷圏の変化に関するモデル結果
- P117 沼口 敦 (国立環境研), 高橋正明・熊倉俊郎・中島映至・塚本雅仁 (東大・気候システム), 光本茂記 (国立環境研), 住 明正・松野太郎 (東大・気候システム): CCSR/NIES大気大循環モデルの気候値 (第1報)
- P118 中島健介 (東大・気候システム): WISHEの直接計算 (16384kmの2次元積雲モデル)
- P119 田口彰一 (資源環境研): 対流圏の南北両半球大気の交換流跡線解析の結果
- P120 田中 実 (気研・台風): アジア・西太平洋・オーストラリア地域における熱帯モンスーンの上層層による開始・終了日の解析
- P121 高藪 縁 (国立環境研), 新田 勅 (東大・気候システム): 赤道域の雲クラスター
- P122 中澤哲夫 (気研・台風): TOGA-COARE GMS IR CD-ROMについて
- P123 隈 健一 (気象庁・数値予報): Semi-Lagrangianモデルにおける減衰項の取扱いについて
- P124 瀬上哲秀 (気象庁・数値予報): 数値予報結果を直接用いた客観的天気翻訳

ポスター講演者へのお願い: 概要紹介は1件1分以内です。ポスターには表題と発表者名を明記して下さい。